行政常任委員会会議録

平成30年2月20日（火曜日）
午前10時30分開議
委員会室

◎日程

1 企画課

- (1) 樹海ロード広域連携協議会の解散について
- (2) 地域おこし協力隊員の採用について

2 産業振興課

- (1) 「ユウパロの湯」に係る指定管理者の指定取消しについて
- (2) 道の駅「夕張メロード」のトイレ改修について

3 財政課

- (1) 鹿の谷公衆便所ネーミングライツスポンサーについて
- (2) 財政再生計画3月変更について
- (3) 3月補正予算について（補正予算調書）

◎出席委員（8名）

大山修二君
高間澄子君
本田靖人君
小林尚文君
今川和哉君
熊谷桂子君
君島孝夫君
千葉勝君

◎欠席委員（0名）

【委員長挨拶】

（大山委員長）

皆さん、おはようございます。開会に先立ちまして皆様にお願いがございます。携帯電話等をお持ちの方は電源をお切りいただくか、マナーモードに設定し、ご利用はお控えください。

それでは、ただいまから行政常任委員会を開催いたします。

本日の出席委員は、8名全員であります。ほかに、議長が出席されております。理事者側からは齋藤理事、総務課長のほか、説明員として課長等が出席されることとなっております。

なお、富山理事につきましては、夕張市地域公共交通協議会に出席のため、本委員会を欠席する旨の申し出がなされております。

本日の委員会の進め方についてであります。企画課、産業振興課、財政課の順に報告を受け、これに対する質疑を行ってまいりたいと思っておりますが、そのように取り進めてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議がありませんので、そのように取り進めてまいります。

それでは、企画課より報告を受けてまいります。

【企画課】

1. 樹海ロード広域連携協議会の解散について（資料1）
2. 地域おこし協力隊員の採用について（資料2）

（企画課長）

企画課富永でございます。企画課の方からは2点ほど、樹海ロード広域連携協議会の解散及び地域おこし協力隊員の採用についてご報告申し上げます。

まず、1点目、樹海ロード広域連携協議会の解散につきましてでございます。資料の1をごらんください。

樹海ロード広域連携協議会のこれまでの経緯について、まず申し上げます。平成23年の道東道の開通による高速道路利用客の通過対策、あと札幌圏や十勝圏の観光客の入り込み増を目的として、夕張市、むかわ、日高、占冠の4市町村で関係団体が連携いたしまして、平成24年4月12日に樹海ロード広域連携協議会が設立されたというところでございます。

この協議会において全国初の取り組みとなります。高速道路の乗り降りを自由化した、「高速道企画割引活用事業」では、高速道路開通に伴う影響を抑えるという成果を上げたところでございまして、その後、全道的にその取組が広がったところでございます。

協議会では、そのほか構成市町村内の協力店舗で割引特典付きのグッズ販売を行った「ロックンロード274事業」、道路沿いの景観向上のために花苗を整備した「花とみどりの広域連携事業」等を実施してまいったところでございます。

こういった取組を経まして、先日、平成30年2月6日に協議会の総会を開催されまして、構成首長間において、解散につきまして話し合いが行われまして、以下

に示してますとおり、今後の方針を確認した上で解散について合意したというところでございます。

読み上げさせていただきますが、これまでの協議会の取組が年々増加する北海道の観光客へのサービス向上、魅力アピールに大きく寄与したものと確信し、一定の成果を上げたものとして協議会は発展的解散をすることとする。従前の枠組みは解消されるが、これまでに構成市町村において醸成された協力関係については維持することとし、今後は観光分野のみならず幅広い分野で柔軟に交流・連携を図っていくこととする。ということで解散に合意したというところでございます。

これまで、一緒に取り組んできたものについては、一定の成果があったということとその場で確認いたしまして、今後は観光に限らない連携を関係、市、町で図っていくということで解散に至ったものでございます。

以上でございます。

2点目、そのまま続けて説明させていただきます。

資料の2でございます。地域おこし協力隊員の採用についてでございますが、夕張高校魅力化事業の一環として、公設塾の設置というものに取り組むこととしておりますが、そのために塾講師の採用を地域おこし協力隊制度を活用して実施しております。

平成30年2月1日におきまして、西野有希さんを公設塾の講師として採用いたしました。東京都出身の方で、今回、東京都から転入されるという方でございます。公設塾の講師としましては3名ほど講師を予定しておりますので、今後3月に、あと2名を採用予定としております。

合わせて公設塾における業務内容を説明を申し上げますが、書いてありますとおり、一人ひとりに合わせた教科指導カリキュラム、大学受験対策といったものの設計や、それに基づく指導とかをしていくということでございます。

二つ目が高校生に対するコミュニケーション力や課題解決力を育てるプログラムの実施。夕張ならではの地域学習の実施。高校生が企画する学習活動のサポートをしていくと。

5点目が公設塾そのもののマネジメントですとか、市、高校との連携調整。

本年4月以降に本格実施を考えておりますので、2月、3月、この一、二箇月におきましては公設塾開設準備ですとか、塾講師としての本人たちの研修を実施する予定でございます。

以上でございます。

〔報告に対する質疑〕

(大山委員長)

それでは、これより報告に対する質疑を受けてまいります。

(小林委員)

私、一つお聞きしたいのが、樹海ロードの広域連携協議会の解散についてですけれども、6日に解散について合意をしたということですが、当然、一定程度の成果が行われてきたという部分での解散だと思いますけれども、これからのあり方について、協力関係について幅広い分野で柔軟に、これから交流・連携という部分での文言が示されておりますけれども、これらについて、大変観光のみならずという部分もありますけれども、観光もこれから夕張にとっても大事なことだと思いますし、いろんな広域の部分で、今の時点で交流・連携という部分が何かこういう方向性でという部分が一つ二つでもあるのであれば、お聞かせいただきたいと思います。

(企画課長)

小林委員のご質問にお答えいたします。

その場で、総会の場でまず一つ、観光分野ではありますけれども、お互いの観光パンフレットを各市、町で持ち寄ってそれぞれ置くですとか、あと、その場の意見として、多分、医療、振興局分かれているとはいえ、比較的近いエリアでございませぬので、具体案は特にまだ出てきてはおりませぬけれども、医療分野の連携というところもあり得るのではないかという発言はあったところであります。

(小林委員)

当然、解散についてどうこう言うつもりはございませぬけれども、そういう部分で夕張市に資するものであれば、いろんな形で連携をお願いしたいと思っておりますので、よろしくをお願いしたいと思います。

以上です。

(大山委員長)

ほかにございませぬか。

(熊谷委員)

公設塾の講師についてお願いします。

今回は、地域おこし協力隊を使って採用するということですが、協力隊の場合は3年という上限がありますので、公設塾、これからずっとやっていくことになると思っておりますので、せつかく意欲を持ってこういうことやろうということに来てくれた方たち、3年たった後、どんなふうに市は考えていらっしゃるのかをお願いします。

(企画課長)

熊谷委員のご質問にお答えします。

公設塾については、当然、来年度からスタートさせまして、公設塾の講師の任期に限らず、当然継続してもらっていく事業でございませぬので、公設塾の運営の中で、塾講師のあり方については検討するということになると思っております。当然ながら、3

年間で終わりというようにならないような取組をしていけるかなというふうに思っております。

(大山委員長)

よろしいですか。

(熊谷委員)

はい。

(大山委員長)

ほかにございませんか。

(議長)

お疲れさまです。

今、報告いただきました地域おこし協力隊員の採用の関係で、計画変更、それから補正予算ということで、今年度、取組をさせていただいている中で、改めてちょっと確認をしておきたいのですが、この地域おこし協力隊員の報酬の額について幾らであるかということが一つと、それが総務省の定めている範ちゅうの中か外かということについてです。

(企画課長)

議長のご質問にお答えいたします。

公設塾の講師の報酬につきましては、リーダーの方が27万円と。あと、それ以外の講師の方が月額27万円、それ以外の方が23万円という予定にしております、この形で補正予算も議決いただいております。塾講師というのが、それなりにやはり専門的な知識を要するものでございますので、民間の状況ですとか、あと市内の同じようなスキルを持つような市役所の報酬との均衡を図って、この額を設定させていただきました。

ご指摘の点におきましては、総務省が定める地域おこしの財政措置の基準よりはオーバーしている金額ということで、必要に応じて概略を設定させていただいたというところでございます。

(議長)

ありがとうございます。

そうしますと、いわゆる一般財源の方から持ち出していくのは、主に高校魅力化ということで、いろいろとご支援をいただいているような歳入を活用するという考え方でよろしいですか。

(企画課長)

そのとおりでございます、今回、高校魅力化のプロジェクトに際して、ガバメントクラウドファンディングを実施しましたので、そういった、ふるさと納税でありますので、ハンカチ基金の財源を活用いたしまして賄ってまいるというところでございます。

(議長)

ありがとうございます。それで、最後ですが、今回1名の方のご紹介をいただいて、それから3月中に2名ということで合計3名ということなのですが、全体の募集というのは3名以上いらっしやったのかどうかということと、それから、この3名の方については、大体、採用するのですから市が求めている人材だということは間違いないのですが、そういう意味で、採用していこうという人材が今回集めていただいたということによろしいのかどうか。

(企画課長)

お答えいたします。

今回、公設塾の講師に関しましては、採用そのものを外部委託いたしまして、要するに夕張にわざわざ来ていただいて面接するというのも、かなりお互いにかなり労力なので、まず書類選考から東京での面接というものを一度実施した形で実施いたしました。

書類の応募があったのは20名と聞いております。そのうち東京での面接に至ったのが14名というふうに、東京ないし札幌の面接に至ったのが14名と聞いております。そのうち選考いただいた3名につきまして夕張市役所で面接を行いまして、3名とも経験豊富な方だということで、あと夕張に対する思いもあるということで判断いたしまして採用いたしました。

以上です。

(議長)

ありがとうございます。

(大山委員長)

よろしいですか。

ほかにございませんか。

(大山委員長)

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、これで企画課を終わります。

それでは、続きまして産業振興課より報告を受けてまいります。

【産業振興課】

1. 「ユウパロの湯」に係る指定管理者の指定取消しについて (資料1)
2. 道の駅「夕張メロード」のトイレ改修について (資料2)

(産業振興課長)

おはようございます。それでは、私からは2点説明をさせていただきます。

まず、1点目ですが、「ユーパロの湯」に係る指定管理者の指定取消しについてということであります。資料1をごらんください。

(1)休業に入ってから経過というところでもありますけれども、平成29年11月16日からユーパロの湯につきましては休業に入っております。平成30年1月22日には、現地法人であります株式会社ユーパロの破産手続きが開始をされております。

続きまして、平成30年1月25日ですけれども、前回、行政常任委員会でお知らせしましたが、指定管理者である株式会社バトナ代表と面談を行っております。指定管理者であります株式会社バトナからは、経営状況の悪化等のため管理業務を継続することが困難ということで、1月末日をもって指定管理を返上したい旨の協議書が、この時点で提出をされたところでもあります。

これを受けまして、市としましては平成30年1月31日、指定管理者である株式会社バトナの指定取消しを行ったところでもあります。

今後の対応についてでありますけれども、2月19日から施設の養生について改修をしております。

それから今後、施設の在り方につきましては、慎重に協議をしていくということで考えております。

ユーパロの湯の指定管理者の取消しについては以上であります。

続きまして、道の駅「夕張メロード」のトイレ改修についてであります。

資料の2をごらんください。

(1)改修概要についてであります。当面の課題であった道の駅「夕張メロード」のトイレについて、利用者の利便性向上や老朽化した「さわやかクローゼット」への投資コストを抑制するために、現在の店舗内トイレの機能改善、24時間利用を可能とする改修を目指すことで市と夕張市農協において協議を行い、本年度において夕張市農協が改修事業を行うこととしたものであります。

(2)経過であります。市は夕張市農協が行う改修に係る費用の2/3を補助することとし、平成29年9月、第3回定例市議会において1,934万円の補正予算が議決されたところでもあります。

その後、トイレの24時間化に伴う浄化槽の入れ替えや防犯設備の設置などが必要となり、見積もっていなかった追加的コストが発生することが判明し、夕張市農協から今年度の実施については断念するとの申し出があったものであります。

(3)今後の対応というところでもあります。平成29年第3回定例市議会で議決された補正予算につきましては、平成30年第1回定例市議会において減額補正予算案として提出をさせていただきたいと考えております。

道の駅のトイレ改修は将来的な課題としつつ、夕張の魅力発信基地としての道の駅「夕張メロード」のあり方について、今後とも市と夕張市農協が協力・連携した

うえで基本方針を策定していきたいと、こう考えております。
説明は以上です。

〔報告に対する質疑〕
(大山委員長)

それでは、これより報告に対する質疑を受けてまいります。

(小林委員)

まず、資料2の方からちょっとお聞きしたいのですけれども、メロードのトイレの改修の件について若干お聞きしたいと思いますけれども、トイレの24時間化に伴い浄化槽の入れ替えや、また、防犯設備設置についての追加コストということでしたけれども、これらが判明したということですので、これらは当初の見積もりの時点あると思ったと思いますけれども、それらには見込めなかったということではよろしいのでしょうか。

(産業振興課長)

小林委員の質問にお答えさせていただきます。

24時間対応にした場合の浄化槽の入れ替え、それから防犯設備については、当初は想定をしていなかったということが発生をしたということでありまして、当初の見積もり時点で見込めなかった部分については、率直におわびを申し上げたいと思います。

(小林委員)

説明ございました、これ今後とも道の駅については重要なものであると私は認識しておりますし、その中であって市または夕張市農協、協力・連携した上でということではありますが、これからの基本方針を策定していくに当たり、どのようなことをこれから考えていかれるのかお聞きしたいと思います。

(産業振興課長)

夕張メロードにつきましては農協の店舗を活用させていただいて、市が道の駅として開設をしているところであります。

開設者である市と主要な運営主体であります農協とが、それぞれの役割を果たしながら利用客の利便性向上に資する方策を、双方で協力・連携して検討をしてみたいというぐあいには考えてます。

(小林委員)

そのようなことで、今後とも大事なものであると思いますので、特に観光、それから産業の活性化については、これらは重要な施設であると思っておりますので、お願いしたいと思います。

それと同時に、これは9月議会の中でもこのお話しされましたので、今後、こういう形についてのものの資料をできるだけ詳細にわかるものがあれば、ご提示をい

ただきたいと思えますけれども、その辺よろしいでしょうか。

(産業振興課長)

今後につきましては、30年度に向けて都度、農協さんともお話をしてくということになりますけれども、ある時点ある時点では、その資料を含めて提示をさせていただきいと思えます。

(小林委員)

わかりました。

(大山委員長)

よろしいですか。

(小林委員)

はい。

(大山委員長)

ほかにございませんか。

(本田委員)

資料1ユーパロの湯に係る指定管理取消しについてに関連してお伺いします。

(2)の今後の対応について、施設のあり方については慎重に協議をしていくということでご説明がありましたが、一度バトナさんに指定管理受けていただく前は、一旦温浴施設としての存続を、方向性としては主としては断念をする方向でのお考えだったところに指定管理のお申し出があり、お願いをしたといういきさつがあったかと思うのですが、今後、新たにまた温浴施設としての指定管理を受けたいという企業があった場合には、また指定管理者として指定をする可能性はあるのかどうかについてお伺いをします。

(産業振興課長)

本田委員の質問にお答えをいたします。

確かにバトナに指定管理を行わせる以前、一度、温浴施設としてはもうできないのではないかというようなお話があったというところでもありますけれども、どのような使い方ができるか、例えば、温浴施設以外の使い方、もしくは指定管理、現在と同じような指定管理の仕方。それと、例えば、違う方向での指定管理の仕方、もしくは売却、譲渡、いろいろなことが考えられるということになります。使用、仕方も含めてですけれども、そういうようなこともありますので、それらを慎重にもう一度、今までの4回、指定管理がうまくいかなかったということも踏まえて慎重に検討をしてまいりたいと考えています。

(本田委員)

方向性としてはわかりましたが、では、この方向性、慎重に協議して、いつまで方向性を固めるという方針ではないということによろしいのでしょうか。

(産業振興課長)

いつまでという期限は、今、決めているところではございませんけれども、まず施設の状況について雪解けを待って調査を再度しまして、現状どのような状態になっているのかというのを確認しながら、今後、検討をしたいと考えております。

(大山委員長)

よろしいですか。

(本田委員)

はい。

(大山委員長)

ほかにございませんか。

(小林委員)

前にお配りいただいているところで確認だけに済まさせていただきたいと思えますけれども、当然この指定管理の返上、これは市民の中でも回数券等を買われて、それがスムーズに利用券が使えるという部分でありましたけれども、もうほかにもいろんな分で影響あったのかどうか、別にしても、関係業者さんともあったかと思えますけれども、その部分については代用というのは、これ市ではないと思えますけれども、状況がわかればお聞きしたいと思えますけれども、その辺の部分がスムーズにいろんなものが履行されているのかどうか。

(産業振興課長)

小林委員の質問にお答えをいたします。

確かに株式会社ユーパロと取引のありました業者さん、幾つもあります。当初、市の方にもいろいろなお電話があったところでありますけれども、現在は破産手続中ということで、全て破産管財人の方で対応をしております。ということで、現在、市の方には、資金わかりませんが、管財人が、今、業務を進めているというような形になっています。

(大山委員長)

よろしいですか。

(小林委員)

はい、よろしいです。

(大山委員長)

ほかにございませんか。

(議長)

それでは、資料1の関係で「ユーパロの湯」の件でございますが、今、いろいろ委員の方から確認等されていたところではありますが、特に今後の対応で、先ほど来、慎重にということですから、まだその時期というのはなかなか明確にできないと思うのですけれども、その中でも一定程度、方向性、あるいはこの時期

を目途に、また、なかなか行政側だけでは解決できない問題でもあると思うのですけれども、おおむね慎重に協議する期間というのを大体新年度に始めようと思いますが、大体どのぐらいの期間で一定程度の決着を見込んでといたしましょうか、決着をするようなご予定でいらっしゃるかということなのですが、その辺りはいかがでしょうか。

(産業振興課長)

議長の質問にお答えいたします。

いつまでというところで、今のところ期限を切ってるわけではございませんけれども、先ほども申したように、施設の状況の確認というのが必要であるかと思えます。

雪解けを待って早急にその分に関しては、専門業者に見ていただくようなことになると思いますが、それを含めて検討をしていきたいと思っております。

ただ、できるだけ早いうちには、その方向性についてはお示しできればと思えます。

(大山委員長)

よろしいですか。

(議長)

はい。

(大山委員長)

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

(大山委員長)

ないようですので、これで産業振興課を終わります。

それでは、次に、財政課からの報告ですが、初めに財政課長から鹿の谷公衆便所ネーミングライツスポンサーについて、引き続き、財政再生計画3月変更についてと水道事業会計を除く3月補正予算についての報告を受けた後、続いて土木水道課長から水道事業会計の3月補正予算について報告を受けてまいります。

【財政部】

1. 鹿の谷公衆便所ネーミングライツスポンサーについて

(1) スポンサー会社 株式会社LIXIL

(2) ネーミングライツ愛称

「LIXIL遊来(ユク)ルペシペみんなのトイレ」

(3) 開設期間 平成30年4月下旬～11月上旬(予定)

2. 財政再生計画3月変更について(資料1)

3.3月補正予算について（補正予算調書）（資料2）

（財政課長）

おはようございます。

財政課からの報告事項1点目、鹿の谷公衆便所ネーミングライツスポンサーについてであります。委員の皆様ご承知のとおり、鹿の谷公衆便所につきましては、ネーミングライツによるスポンサー料により維持管理経費を賄っております。

本契約は1年契約とし、期間満了の2か月前までに更新の意思を確認することとしておりますが、本年1月30日付けで現契約者である株式会社LIXILより契約更新の申し出があったことから、これを受けることとし、平成30年度においても「LIXIL遊来ルペシペみんなのトイレ」の名称にてトイレの開設を行うものであります。

なお、開設期間につきましては、例年どおり4月下旬から11月上旬を予定しているところであります。

続きまして、報告事項の2点目。夕張市財政再生計画3月変更について説明いたします。

計画変更に関しましては、今現在、国、北海道と協議を行って最中であることから、今後、内容に変更が生じる可能性があるのご留意願います。それでは資料の1-1、こちらは平成29年度3月補正にかかわる財政計画の変更内容になります。

計画変更の基本的な考え方といたしましては、今回の変更は本年1月に行った平成29年度第6次変更以降に生じた新たな課題に対応するものであります。

また、必要となる財源につきましては、国道支出金、地方債、寄附金及び基金等の特定財源を活用するため、再生計画期間の変更はないものでございます。計画変更総額は歳入歳出とも1億2,225万円となります。

それでは、歳出より内容説明いたします。資料1と2は人件費になります。1は各課にわたる人件費でございます。こちらは、人事院により国家公務員の棒給表の水準引き上げと勤勉手当0.1か月分の勧告がなされ、それに基づく国家公務員給与法の改正が昨年12月にあったことに準じ、給料及び勤勉手当の相当分を引き上げる経費を追加するものでございます。

2番目の人件費は平成29年4月の職員人事異動に伴い、人件費から繰出金に予算の組み替えの経費を追加するものでございます。

3番目、幸福の黄色いハンカチ基金積立。こちらは今年度中に寄附採納が見込まれる金額を幸福の黄色いハンカチ基金に積み立てる経費を追加するものでございます。なお、同額を寄附金として債務に見込んでおります。

4番目、地域おこし企業人交流プログラム。こちらの経費は、当初予算に負担

金補助及び交付金として予算計上しておりましたが、派遣元ANAと協議により委託料として支出することとしたため、補助費等から物件費に歳出の性質変更を行うものでございます。

5 点目、炭層メタンガス試掘調査事業。当該事業につきましては、当初及び 9 月補正予算に計上したものでございます。こちらは過疎対策事業債(ソフト事業分)の発行が可能となったことから、幸福の黄色いハンカチ基金繰入金から地方債への財源振替を行うものでございます。

ほかに、議決予算計上事業のうち過疎対策事業債の発行が可能となったことにより、幸福の黄色いハンカチ基金から地方債へ財源振りかえを行う項目といたしましては、14 番初期救急確保対策、26 番スクールバス運営の 2 点であり、ここで一括して説明させていただきます。

6 点目、拠点複合施設整備。当該事業につきましては、1 月補正予算に計上したものでございますが、補正後に判明した記載対象外である部分について地方債から一般財源の財源振替を行うものでございます。

7 点目、結婚新生活支援事業。当該事業につきましては、6 月補正予算に計上したものでございます。こちら、過疎対策事業債の発行が可能となったことから、一般財源から地方債への財源振替を行うものでございます。既決予算のうち過疎対策事業債の発行が可能となったことにより、一般財源から地方債へ財源振替を行う項目といたしましては、ほかに 8 番の高齢者住宅福祉除雪事業。9 番の認可保育所防犯対策強化整備費補助。20 番、水田遊休地の有効利用対策事業。27 番、夕張高校生徒通学給付費。28 番、ユーパロ幼稚園地下タンク撤去工事。32 番、石炭博物館管理の 6 点であり、ここで一括して説明させていただきます。

10 点目、保育入所児童扶助。こちらは平成 29 年 4 月 1 日に遡及し道が実施している「多子世帯の保育料軽減支援事業」について道支出金が見込まれるため、保育児童福祉費負担金から道支出金への財源振替を行うものでございます。

11 点目、国民健康保険事業会計繰出金。一般会計から国保会計に繰り出す経費といたしましては、まず人事院勧告による給与及び手当引き上げ分が 24 万 6,000 円の増。4 月 1 日付けの人事異動に基づく人件費の増分が 159 万円の増。国民健康保険事業のシステムの改修がシステムのクラウド化により繰り出し不要となったことから 32 万 4,000 円の減、差し引き 15 万 1,200 円の経費を追加するものでございます。

12 番目、介護保険事業会計繰出金、13 番目、後期高齢者医療事業会計繰出金、この 2 点に関しましては、人事院勧告により、給料及び手当引き上げ分として、介護会計は 45 万 5,000 円、後期高齢者医療事業会計は 4 万 2,000 円の経費を追加するものでございます。

15 番目、共同浴場修繕。こちらの方は、真谷地浴場の給湯ミキシング装置故障

のための修繕が13万5,000円、清陵浴場の給湯用ボイラーと配管を接続する防振継手が劣化損傷のための修繕が6万3,000円、計19万8,000円の経費を追加するものでございます。

16番目、診療所手数料徴収事務委託料。こちらは、市立診療所が発行する診断書の手数料、こちらの方は市の歳入となりますが、同額を徴収委託料として指定管理者に支出しております。当該手数料が当初見込みより増加し、組合の徴収事務委託料に不足を来す見込みであることから、不足分の経費を追加するものでございます。

17番目、診療所建設基本計画策定。財政再生計画に登載した市立診療所の移転改築に係り、基本計画策定委託料を今年度、当初予算に計上してはいたしましたが、諸課題の整備に時間を要し、今年度は計画策定を見送ることとしたため、当該経費の減額をするものでございます。

18番目、下水道事業会計繰出金。一般会計から下水道事業会計に繰り出す経費といたしましては、人勸による給料及び手当引き上げ分が9万9,000円の増、4月1日付けの人事に基づく人件費増分が38万円の増、下水道会計内における記載の財源振替に基づく一財の減により350万円の減、合わせまして302万1,000円の繰出金の経費を減じるものでございます。

19番目、農業委員・農地利用最適化推進委員に係る実績報酬。今年度7月に新制度に移行し、夕張市農業委員会が農地利用最適化交付金事業の対象となったことから、対象の実績報酬を支給する経費を追加するものでございます。財源は全額道支出金となります。

21番目、道の駅機能改善整備事業。9月補正予算に計上した当該補助事業につきまして、補助対象の機関より、今年度は事業を行わない旨の申し出があったことから補助を執行しないこととし、当該経費を減額するものでございます。

22番目、橋梁長寿命化計画事業。当初予算に計上していた同事業につきまして、財源である社会資本整備総合交付金の交付額が大幅に減となったため、一部事業の見直し財源振替等による予算措置を行うものでございます。

具体的には、当初予算の事業費総額1億7,970万円を3,210万円減額し、財源の国庫補助2,181万7,000円、一般財源の2,348万3,000円を地方債1,320万円に振りかえるものでございます。

23番目、除雪車購入。当初予算に計上していた当該経費につきまして、入札の執行残を減額するとともに、社会資本整備総合交付金の交付額の減により地方債に振りかえる財源振替を行ったものでございます。

24番目、25番目、市営住宅再編事業。こちら一括で説明します。

市営住宅再編事業におきまして、老朽住宅除去工事の事業費を増額、同額を市営住宅外構工事で減額するものでございます。こちらは同事業内ではありますが、

住宅除去工事が物件費、住宅外構工事が普通建設事業であり、性質が異なることから計画変更を要するものでございます。

29 番目、小学校維持管理。当初予算に計上していましたが、同事業につきまして、平成 29 年 3 月に指定寄付があったことから、一般財源により幸福の黄色いハンカチ基金への財源振替を行うものでございます。

30 番目、31 番目、小学校と中学校の心電図検診事業。こちらは当初予算に計上していた事業につきまして、国庫補助が交付される見込みであることから小学校費では 9,000 円、中学校費で 1 万 3,000 円の財源振替を行うものでございます。

33 番目、石炭博物館改修。こちらは当初予算に計上した同事業につきまして、平成 29 年 5 月に地方創生拠点整備交付金の交付決定を受けたことから、地方債から国庫支出金への財源振替を行うものでございます。

34 番目から 37 番目に関しましては、過年度過誤納還付金といたしまして、これまで受領した国庫支出金等のうち、事業の精算により超過交付となったものを返還するものでございます。

次に、歳入であります。歳入の計画変更に伴い、その財源としてこれまで説明を行ったとおりの計画変更を行うものでございます。

続きまして、A3 の資料 1-2、こちらは平成 30 年度第 1 次変更の概要を示しておりますので、ご参照いただきたいと思います。

現計画と比較し、歳入歳出とも総額で 1 億 7,982 万 4,000 円の減となっております。

次ページの資料は、夕張市財政再生計画平成 30 年度 1 次変更事業として、現計画の 30 年度分に計上されていない新規の変更内容を一覧で示してあるものでございます。こちらの方もご参照ください。

続きまして、報告事項の 3 点目、資料の 2、平成 29 年度予算 3 月補正につきましてご説明申し上げます。

まず、1 ページ。1 ページは、一般会計の地方債の補正を示しております。

再生計画の変更で説明した財源振替に関するもの及び事業取りやめによる財源である地方債の減を示しております。

2 ページ目。2 ページ目は下水道事業会計の地方債補正を示しております。

3 ページ目。これも、先ほど説明いたしました財政再生計画変更に基づく一般会計の款別の補正額について計上しております。補正総額は 1 億 1,525 万円、財源は国道支出金が 9,474 万 5,000 円の増、地方債が 6,190 万円の減、その他といたしましては寄附金が 1 億 8,699 万 1,000 円の増、手数料収入が 32 万 3,000 円の増、保育負担金が 115 万 8,000 円の減、幸せの黄色いハンカチ基金繰入金金が 6,011 万 7,000 円の減となります。

一般財源は 4,363 万 4,000 円の減となるので、こちら財政調整基金繰入金を同

額減じることで対応いたします。

4 ページは一般会計の事項別明細の補正でございます。

資料 1-1 と内容が重複するので、説明は割愛させていただきます。なお、各事業の財源は資料に記載のとおりでございますので参照願います。

次に 10 ページをお開きください。こちら、国民健康保険事業会計の補正予算になります。

総務費につきましては、当初予算に計上した国保システムの改修につきまして、こちらがクラウド化となったためにシステム改修委託料が不要となり、代わりにクラウドの負担金を計上いたしております。

また、人件費につきましては人事異動分、人勧準拠分、合わせて 183 万 6,000 円の補正を行うものでございます。

諸支出金につきましては、過年度過誤納還付を行う経費を補正しております。一般財源の対応は、一般会計繰入金が 151 万 2,000 円、国民健康保険準備基金繰入金が 2,279 万 4,000 円の繰り入れとなっております。

続きまして、11 ページ、こちらは、公共下水道事業会計の補正となります。人件費につきましては平成 29 年の人勧対応及び 4 月 1 日付け、人事に基づくものを合わせて 47 万 9,000 円の増、公債費につきましては、平準化債による財源振りかえを行うものでございます。合わせて一般財源は 302 万 1,000 円の減となることから一般会計繰入金の減で対応いたします。

続きまして 12 ページ、介護保険事業会計の補正予算でございます。

こちらは人件費、人勧対応分としまして 45 万 5,000 円の補正を行うものでございます。一般財源は一般会計繰入金で対応いたします。

13 ページ目、後期高齢者医療事業会計の補正でございます。

こちら人も人勧対応の人件費として 4 万 2,000 円の補正を行うものでございます。一般財源は一般会計繰入金で対応いたします。

なお、水道事業会計の補正の説明は土木水道課長からいたします。

(土木水道課長)

続きまして、水道事業会計 3 月補正予算についてご説明申し上げます。

今回の補正は、経費の年度末までの執行見込みによる所要額について補正するものでございます。

初めに、水道事業会計補正予算調書 1 ページ、地方債の補正について、配水施設整備事業実行見込みにより限度額を補正するものであります。

次に、2 ページ、収益的支出の補正についてご説明いたします。

1 の水道事業費、営業費用の主な補正であります。給与改定に伴う人件費、及び P F I 事業に関わる総係費委託料を増額するほか各経費について実行未行により、それぞれ補正するものであります。

この結果、収益的収入及び支出の補正額の計上利益は税込みで1万4,000円の増益となるものであります。

次に、3ページ、資本的収入及び支出であります。資本的収入の企業債及び資本的支出の建設改良費について実行見込みにより、それぞれ補正しようとするものでございます。

その結果、資本的収入から支出を差し引いた不足額は191万8,000円の減額となるものであります。

以上で、水道事業会計補正予算の説明を終わります。

〔報告に対する質疑〕

(大山委員長)

それでは、これより報告に対する質疑を受けてまいります。初めに鹿の谷公衆便所ネーミングライツについて質疑を受けてまいります。

ございませんか。

(高間委員)

鹿の谷のネーミングライツ、ここなのですけれども、この施設なのですけれども、我々余り多目的トイレというのは私たちは使用しないのですけれども、一部の市民の方から多目的トイレの何か故障があるようなことを耳にしたのですけれども、その点はいかがでしょう。

(市民課長)

鹿の谷の公衆便所の関係ということですね。

確かに身障者用の便器の方を一部破損して、それについては使用不可ということで、その部分を使わないで便所のネーミングライツ、スポンサーのこのスポンサー料で運営をしているという状況です。

(高間委員)

持ち主は市ということですので、やはりこういう、例えば、故障した時点でやっぱり修理修繕していかないと、施設がやはり壊れる一方に傾いていくのかなというふうに思うので、その修理、小さいうちに修理をして機能がきちっと改善していくような方法も、やはり検討していかなければいけないのではないかなというふうに私自身は思うのですけれども、そのような方向性で検討というのは可能でしょうか。壊れたら壊れたままで使っていくという方向なのか、そこら辺をちょっとお聞きしたいと思います。

(市民課長)

現在、トイレに関しては清水沢、そして沼ノ沢、ほかにも公衆トイレとして活用しております。それぞれについて故障が発生した段階で、トイレの修繕についてはタイムリーに行っているところであります。

鹿の谷の公衆便所については、一度閉鎖した中でそういう経過があって、その運営についてはネーミングライツ、この費用の中で行うという形のもので今までできております。費用が伴わないものにつきましては、しっかりこちらの方でも対応しながら従来も来てるところであります。その使用について、使用がある部分については、今後、発生したときについては、当然ながら協議をしながらやらなければならないものだ自分たちも考えておりますし、それが全体の使用の中で、そんなに大きな支障のないものであれば、現状の形の中でトイレの運営をさせていただけようと思っております。

(大山委員長)

よろしいですか。

(高間委員)

施設というのは、やはり気持ちよく使っていけることが一番だと思うので、許せる範囲の中で、やはり小さなうちにやはり修繕なり修復なりをまた検討するような形というか、そんな方向性でお願いをしたいなと思いますので、よろしくお願いたします。

(大山委員長)

ほかにございませんか。

(議長)

済みません。お疲れさまです。今のことでの関連なのですが、今回ネーミングライツのスポンサーということでございますので、先ほど市民課長からご説明がありましたけれども、再度確認ということになるかと思うのですが、そういう施設の的に一部破損があるという前提で、このスポンサー契約というのでしょうか、それを結び、今回更新していただいているということによろしいのですよね。

(財政課長)

この今回のスポンサー料に関しましては、あくまでも維持管理経費の範囲ということになりますので、例えば故障した大きな修繕、小さな修繕あると思いますが、そちらのほうに関しましては、市の財団といたしまして別途協議を行うことになるかと思っております。

(大山委員長)

よろしいですか。

(議長)

いいです。

(大山委員長)

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

(大山委員長)

ないようですので、続きまして財政再生計画3月変更、それと3月補正、水道事業会計も含め質疑を受けてまいります。

(今川委員)

財政再生計画3月変更について、資料1-1の24市営住宅再編事業（老朽住宅除去工事）について質問します。

こちらの事業費増額の事情などわかりましたらお願いいたします。

(建設課長)

今川委員のご質問にお答えいたします。

29年1月4日に、諸経費の基準がまず改定になったということが一つと、除去工事において第三者が工事現場内に入るというところがちょっと以前ありまして、その関係で工事区域の囲いをちょっと強化するという必要があったものですから、経費が増額したということでもあります。

以上です。

(大山委員長)

よろしいですか。

ほかにございませんか。

(熊谷委員)

第7次3月変更の22番お願いします。

橋梁長寿命化計画で減額ということなのですけれども、どの橋の寿命が長寿命化を予定されていて、それができなくなったのか、そこをお願いします。

〔「違う」と呼ぶ者あり〕

違うの。失礼しました。わかりました。

(大山委員長)

ほかにございませんか。

(今川委員)

資料1-4について質問いたします。

歳出番号10の空き家等対策計画について、こちらの内容の詳細についてお伺いします。

(大山委員長)

答弁調整のため、暫時休憩いたします。

午前11時04分 休憩

午前11時04分 再開

(大山委員長)

会議を再開いたします。

(建設課長)

この分は空き家の住宅の対策ということで、今後うちの市の個人住宅等の空き家について、どのように扱っていくかということの計画を立てるというところを、今後やっていくということで来年を予定しているということになります。

(大山委員長)

よろしいですか。

(今川委員)

計画を立てる際に、民間企業に委託する際の委託経費ということでよろしいですね。

(建設課長)

そのとおりです。

(大山委員長)

よろしいですか。

(今川委員)

わかりました。

続いて、同じく資料 1-4 なのですけれども、歳出番号 37 石炭の歴史村旧売店解体なのですけれども、この時期に解体する必要性が生じた事情などがありましたらお願いします。

(財政課長)

こちら、今年、それから昨年度と石炭博物館のリニューアル工事を行いました。本年の 4 月末からリニューアルした石炭博物館のオープンを迎えまして、駐車場からゲートをくぐったところの売店、こちらの方が閉鎖したまま放置となっておりますので、いたずらされたり、もしくは間違っ入ってけがをされたりということも踏まえた安全性を考慮して、その部分の解体を行うものでございます。

(大山委員長)

よろしいですか。

(今川委員)

はい。

(大山委員長)

ほかにございませんか。

(本田委員)

同資料の 8 番、関わり人口創出事業について、具体的にどのような事業を予定されているのかを伺います。

(財政課長)

この 8 番の関わり人口創出事業につきましては、財源で国費 100%になっておりますとおり、総務省からの委託事業という形になります。まず、総務省の事業

メリットといたしまして、定住でもなく、それから交流でもない地域と関わりのある人口をいかに増やすか、そのためのモデル市町村を選択して、そこに総務省からの委託をかけて調査を行うという中身になります。具体的に行う事業といたしましては、廃校舎を活用して、そこを交流人口の窓口、プラットホームと位置付けて、そこからどういうふうな関わり人口の拡大が持てるかというところが1点目。それから、2点目としましては、石炭博物館のリニューアルにおける再オープンに関しまして、こちらの方での拡大人口の進め方を、どのように進めていくかという大きな2点に絞った上での事業の中身であります。

以上です。

(大山委員長)

よろしいですか。

(本田委員)

廃校舎のプラットホームの部分と博物館の部分ということですが、具体的に、では何をやるということではなく、要は積算根拠としては具体的なものはないのでしょうか。

(財政課長)

まず、廃校舎のプラットホームに関しましては、委託事業としまして約300万の経費を計上しております。

こちらの方は移住体験を含めて施設の整備も含め、それからそこから関わり人口を持つための方策を、どのような形でやっていくかということ具体的に、地域、市の中でのモデル地域を設けて、そこでの調査を行うというような事業になります。残りのほうの部分、石炭博物館の交流人口拡大、こちらの方は具体的には、ツーリズムエキスポという東京でのイベントがございまして、要はこれも交流人口拡大のイベントになりますが、こちらの方の出店及びそこから石炭博物館を含めた営業をし、夕張市を紹介して交流人口の拡大を図っていくというような中身になります。

(本田委員)

わかりました。

(大山委員長)

ほかにございませんか。

(千葉委員)

同じく同じ資料の中で47番の人件費(給与改善)なのですけれども、これ一般職だと思えるのですけれども、何パーセントの改善をやろうとしているのか。

(総務課長)

この人件費の部分ですが、今、国とまさに協議中の中身でございまして、詳細については申し上げることはできません。現在、財政再生計画の抜本見直しによ

って平均 15 パーセントの基本給カットから、現在は一律 9%のカットで実施をしてる状況でございます。

ここから再生方策に関する検討委員会がまとめた報告書の内容を踏まえ、あるいは行政執行体制の確保を踏まえた中で、今、国とこの独自給与のカット削減率について、緩和ができないかという方向で協議中の中身でございますので、申し訳ございませんが、これ以上の回答はできかねるということでご理解いただければと思います。よろしく申し上げます。

(大山委員長)

よろしいですか。

(千葉委員)

はい。

(大山委員長)

ほかにございませんか。

(小林委員)

同じ同資料の分ですけど、28 番の物件費・普通建設事業費のはしご車車庫新築工事、この部分では、金額かなり大きいような部分でこれ出てるのだけれども、この経過経緯、新築工事に関しての、もうちょっと詳しくお知らせください。

(財政課長)

小林委員のご質問にお答えします。

28 番のはしご車車庫新築工事でございます。こちらの方は財政再生計画、昨年度、抜本的に見直した財政再生計画において、平成 30 年度にこれまでのはしご車を更新する経費というのを見込んでおりますので、こちら 30 年度予算には出てくるものでございます。

しかしながら、このはしご車の入れる車庫の方が再生計画の方に未計上であったことから、今回、計画変更で計上するものでございます。

(大山委員長)

よろしいですか。

(小林委員)

はい、済みません。わかりました。

(大山委員長)

ほかにございませんか。

(君島委員)

同資料です。17 番、それから幾つかありますが、地域おこし協力隊派遣事業のことで三つほど載っておりますけど、どのようなことを挙げておりますか。

(財政課長)

地域おこし協力隊、こちらに関しましては、今現在、平成 29 年度においても産

業振興課、それから教育課、そして公営塾の関係で企画課の方に配置をしておりますけれども、実は財政再生計画に、昨年度、抜本的に見直した財政再生計画の後年次推計におきましては、地域おこし協力隊の分は計上しておりません。

こちら毎年度、計画変更で計上していく分ということになります。そうしたことから、現在も配置されておる人数、そして、来年度、新しく配置する人数ということで計12名の地域おこし協力隊、配置は先ほど申しました3課の部分になります。事業内容に関しましては、これまでとほぼ同じ継続内容ということで考えていただいで結構です。

(大山委員長)

よろしいですか。

ほかにございませんか。

(君島委員)

同資料の39番、平和運動公園野球場改修工事、これはどのような改修になりますか。

(教育課長)

こちらにつきましては、本年8月に予定しておりますイースタンリーグが夕張市を含めた空知管内の市町で開催される事業に関しまして、平和運動公園の野球場なのですけれども、まず第一にグラウンドの整備、これが、毎年、多少の調整は行ってるのですが、やはりイースタンリーグが来るということできちっとグラウンドの整備を行うということと、もう1点が選手がベンチの中に落下しないようなフェンスが設置してありますが、そのラバーが老朽化により破損しておりますので、そこを修正する、その内容でございます。

以上です。

(大山委員長)

よろしいですか。

(君島委員)

はい。

(大山委員長)

ほかにございませんか。

(本田委員)

同資料33番の小学校施設整備(網戸購入・ブランコ設置)というところなのですが、ありがとうございます。これは複数年でやっていく計画なのか、それとも単年度で網戸を一遍に増設する予定なのか、おわかりでしたらお答えください。

(教育課長)

網戸に関しましては基本的には来年度、単年度で全て入れかえたいと。学校と協議しながら必要などころについて入れかえたいというふうに考えています。ブ

ランコについても来年度で設置したいと考えております。

以上です。

(大山委員長)

よろしいですか。

(本田委員)

はい。

(大山委員長)

ほかにございませんか。

(今川委員)

同資料の歳出番号 1、職員採用試験業務委託についてなのですが、これ初めての試みかと思うのですが、どのような内容で、どのような効果が見込めるのかお願いします。

(総務課長)

再生計画の抜本見直しによって、今後、職員の採用についても計画的に採用しているという変更がなされました。

それで、従来は職員の採用の筆記試験に当たる試験問題を職員が作成していた。採点にあっても職員が採点をしていたというところがございます。採用試験の問題を作成するというのは、かなりの参考書やそういったものを基に、毎年度、問題が重複しないような工夫も必要ですし、かなり神経を使う作業でございますし、採点に当たってもまた同じことが言えます。これにかかわる時間外勤務も相当なものになるということで、他の自治体では採用試験に当たっての試験問題の作成、あるいは採点に当たってはもう委託化となっていることも踏まえ、本市にあっても職員の負担を軽減する、あるいは試験問題に当たっての生産というのを確保するという観点から、今回、計画の見直しで今後の採用試験の試験問題の作成と採点に当たっては委託化したいという方向で検討したものでございます。

以上です。

(大山委員長)

よろしいですか。

(今川委員)

はい。

(大山委員長)

ほかにございませんか。

よろしいですか。

(議長)

お疲れさまです。それでは資料 1-4 の関係、正式には 30 年度の第 1 次ということですから、今後の予算審査の中でということになると思うのですが、それで、

先ほども質問が出ていました地域おこし協力隊の関係で、これ例えば、3月に募集を開始をしたいというような新たな採用が予定されているかどうかについてあれば、何件ぐらいあるということでもちょっと確認をしたいのですけれども。わかりにくいかな。

(財政課長)

議長の質問にお答えします。

地域おこし協力隊、平成30年度分で任期が3年間ということもございますので、例えば、今年1年目、2年目の方は継続のほぼ、本人とのお話し合いによってということになりますが、新規で、例えば、以前の方が任期満了で、そのポストにはまるとか、そういったこともまた新しい事業ということも踏まえて、はまる部分としては、まず教育委員会の方で1年間、今のところ財政の方で把握しているのは、それのみです。

(議長)

わかりました。それでは、前例もあつたのですけれども、3月ということで予算審査中だけれども、公募したいという案件が恐らくあるかと思しますので、その場合はまた別途お知らせをいただきたいと。公募を開始したいという意思表示ですね、お願いしたいと思いますが、よろしく願いいたします。

(大山委員長)

そのとおりよろしく願いをいたします。

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

(大山委員長)

ないようですので、これで財政課を終わります。

以上で、本日本日予定いたしました案件は全て終了いたしましたので、行政常任委員会を閉じます。

大変ご苦労さまでした。

夕張市議会委員会条例第 27 条第 1 項の規定により、ここに署名又は押印する。

夕張市議会 行政常任委員会

委員長 大山 修二 ㊟